

深田征三



ふかた せいぞう

質

医師の確保なくして、統合病院の実現はない。
 全国で医師争奪戦の状況下において、おがた総合病院は、「医師の勤務環境が整備され、安全な医療を提供できる環境の整った病院」に成り得るのか。

答 市長

統合病院の姿を記した構想などを、大学医局や両病院の医師に示し、理解をいただきますながら勤務の要請をします。
 地域医療機関との連携を強化し、医師会とも十分な意志疎通を図り、市民の安心につなげます。

質

県からの病院統合交付金は、統合に際し、その整備事業及び医師確保対策の実施など、市に最大限の支援をするものである。

交付金に、旧病院解体工事費や統合時点のおがた病院の累積赤字の解消を含めるべきだ。

一方で市民は、「統廃合をしても、医師が確保できなければ、借金と地獄を見るだけだ」と心配している。統合前の話に戻すべきではないか。

答 保健福祉部長

解体費や累積赤字は、県の助成の趣旨に反し使用できません。

構想の実現に向けて、魅力ある病院づくりを進め、市・県一体となって医師の確保に全力で取り組みます。

病院統合には反対

医師確保ができるのか

〜県が支援を約束〜



駐車場の一角が増床の予定地です（公立おがた総合病院）



あかみね けんじ

赤嶺謙二

〈おがた病院増床計画〉

医師確保が先では

～魅力ある病院が必要～



パニック症候群の実態は

～長期休職者もあり～

質

おがた総合病院を核とし、51床増設する計画だが、医師確保や患者数の動向を見極めることが先では、先にも箱物ありきは、危険と思うが。

答

保健福祉部長

本市の中核となる病院を整備することによって、医療提供体制を再構築することを目的としています。また、医師にとって魅力ある病院づくりを進めることで、医師の確保を図っていききたい。

質

県立三重病院は、おがた病院の出先として無床の診療所とのことだが、市民の多くは有床の病院を望んでいる。医療法人誘致などの方策はないのか。

答

保健福祉部長

診療所については、三重町区長会を始めとする住民の皆さまからの要望です。また、医療法の規定により、民間病院に病床を移転することは禁じられていることから、誘致は困難です。

質

小・中学校の教育現場、市の職場で、精神的理由により病休となっている職員数は。原因は。予防策は。

答

教育長・総務部長

教職員は若干名、市職員は7名います。原因は、職場環境の変化やストレスなどが考えられます。予防策として、カウンセリングやストレス診断、保健師や産業医の面談、メンタルヘルス研修会などを行っています。